仕 様 書

化学消防ポンプ自動車 [I 型]

(令和7年度)

安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部

化学消防ポンプ自動車 [I型] 艤装仕様書

第1 総 則

1 目 的

この仕様書は、安房郡市広域市町村圏事務組合(以下「組合」という。)が令和7年度に購入する、化学消防ポンプ自動車 I 型(以下「化学 I 型」という。)の艤装、性能、積載器具及び検査時の基準、その他必要な事項一切を定める。

2 艤装概要

- (1) 車両は、令和7年度に公表製作されたもの、又はすべて新規製品のものでなければならない。
- (2) この車両の制作は、国が行う補助の対象となる防衛施設周辺民生安定施設整備事業補助金交付要綱(緊急消防援助隊設備整備費補助金交付要綱準用)並びに道路運送車両法(昭和26年6月1日 法律第185号)及び道路運送車両の保安基準(昭和26年運輸省令第67号)等の関係する法令に適合し、関東陸運局の新規登録検査に合格するとともに、緊急自動車として千葉県公安委員会の承認が得られるものであること。
- (3) 車両製作に際し、「動力消防ポンプの技術上の規格を定める省令」(昭和61年自治省令第24号)に定める規程に基づくものであること。
- (4) 車両は、2WD方式5.5 t級シャシーを基としてA2級高圧ポンプ、ホース延長用資機材(以下「ホースカー」という。)動力昇降装置付を装備、防火水槽等の水利から自力吸放水できる機能を有し、定員6名以上で規格に適合し、本仕様書をすべて満足した車両であること。
- (5) 製作に使用するすべての材料は、日本産業規格に基づいて精選された耐久性に富むものを使用すること。
 - ※ 地域性に鑑み、塩害及びそれらに伴う腐食防止等、完全に対処しうる上質の材料とすること。
- (6) 受注者は、この艤装に際して、地域性を鑑みてFRP製外観とした総合的な重量軽減を図り、車両重量のバランス及び防錆面、耐久面を考慮して制作すること。
- (7) 受注者は、この艤装に際して仕様の目的が十分達せられるよう製作し、技術上変更を要する場合及び、疑義のある場合は組合の承認を得なければならない。又契約後に生じた疑義は、すべて組合の解釈によるものとし、組合の出す新たな指示事項は、本仕様書と同等の扱いとすること。
- (8) この仕様書は、消防消第80号 平成19年5月14日付「消防車両の安全基準の周知徹底について」(総務省消防庁 消防・救急課長通知)「消防用車両の安全基準について・消防

ポンプ自動車編」にすべて準ずるものとし、製造工場については品質管理システム(IS09001 認証取得)を構築していること。また、環境に配慮したIS014001認証取得工場で製作するものとする。消防自動車として求められる長期の使用に耐え得る強度と耐久性を有するよう施工すること。

- (9) この仕様書に記載されていないものでも、消防自動車として当然備えていなければならないものは施工すること。
- (10) 受注者は、設計・製作・材料・部品等に関し、特許その他の権利上の問題が発生した場合には、その責任のすべてを負うものとする。
- (11) 受注者は、この艤装が完全かつ強固に、安全性を十分考慮して完成するよう事前に検討し、契約後1週間以内に組合と細部に亘って十分に打ち合わせを行い、工程に支障のないように確認すること。その後、1週間以内に打ち合わせ議事録を1部組合に提出すること。
- (12) 納入後2年以内に生じた設計、資機材その他工作上の不備、故障又は破損の一切は受注者の負担とし、連絡を受けたら即日引き取りを行い2日以内に入庫し、すみやかに修理すること。
- (13) 受注者は、運用開始後に改善すべき事柄が発生した場合、上記(12)と同様に対処すること。
- (14) 受注者は、保証については定められた期間とするが、保障期間後といえども設計不良、工作不良に起因する不都合箇所が発生した場合は、上記(12)と同様に対処すること。
- (15) 軽微な修理、部品交換等の場合も、必ず消防ポンプ自動車に関する確かな技術を有する担当者が上記(12)と同様に来署し組合の指示に従い、その場で修理、又は部品交換等を行うこと。
- (16) 緊急的な要請時、又は緊急的な修理には、必ず消防ポンプ自動車に関する確かな技術を有する担当者が、6時間以内に来署しすみやかに対処すること。
- (17) 運用を加味した重量で車検登録を行うこと。(別途協議)

3 提出書類

提出書類は下記のものを2部作成し、ファイルに収めたものを提出すること。

- (1) 製作に先だち受注者は、本仕様の全般を確認し化学 I 型の用途が十分に果たされるよう留意するとともに、次のものを提出し組合の承認を受けること。
 - ア 設計図(五面)20分の1(附属品等取付図含む)
 - イ ポンプ搭載図及びポンプ配管図
 - ウ 泡消火薬液混合装置搭載図及び配管図
 - エ シャシー諸元表
 - 才 車体骨組図
 - カ エンジン性能表
 - キ 工程表
 - ク 泡消火薬液槽設計図
 - ケ ポンプ主要部品一覧表

- コ 泡消火薬液混合装置主要部品一覧表
- サ その他組合の指示するもの
- (2) 車両納入時、次のものを提出すること。
 - ア 検査合格証(写)
 - イ ポンプ性能検査表
 - ウ 完成図 (五面)
 - エ ポンプ取扱い説明書
 - オ 泡消火薬液混合装置の取扱い説明書
 - カ 写真 前後、左右、上部面 (データでも可)
 - キ 各資機材取扱い説明書
 - ク 緊急自動車届出関係書類
 - ケ 化学装置配管図
 - コ その他組合の指示するもの

4 検 査

艤装中に工程確認、指示又は検査のため組合が工場に出向するが、正当な理由なく拒むことができない。指示又は検査のため、組合が進捗状況の報告を求めた時は、パソコンのメールにて写真・動画等で報告すること。

指示又は指摘箇所が発生した場合は、すみやかに修正を行いその結果をパソコンのメールに て写真・動画等で報告し、承認を得なければならない。検査の結果、組合が不合格と認めた場 合軽微なものは即日、重大な修正が必要な場合であっても5日以内に修正作業を行い、再検査 を受けること。

(1) 納入前に、中間検査を行う。中間検査は基本的に1回とするが、組合が不適当と認める場合及び疑義が多数発生した場合等は、中間検査の回数に制限は設けない。

検査に係る費用は受注者の負担とするが、検査に係る旅費は組合が負担する。

- (2) 納入時に、完成検査を行うとともに性能検査及び員数検査も行う。検査に合格しなければ組合は納入を一切拒否する。物品の員数不足等にあっても同様とする。そのため納入期限が遅延しても、その責任は受注者が完全に負うこと。
- (3) 完成車両は、日本消防検定協会及び関東陸運局千葉陸運支局袖ヶ浦自動車検査登録事務所の車両検査に合格したもの(新規登録手続完了)を組合に納入すること。

5 手続き等

次の事項に係る手続き等は受注者が代行し、検査を伴うものにあってはこれに合格後、納入すること。

- (1) 関東陸運局の車体検査に関すること。
- (2) 千葉県公安委員会の緊急自動車等の指定申請(届出)に関すること。

- (3) 当組合の更新対象車両の一時抹消登録を代行すること。また、更新対象車両のシール、サイレンアンプ及び赤色灯等を取り外し処分すること。(時期については別途指示)
- (4) 車両ナンバーは希望ナンバーとする。(別途協議)
- 6 シャシー主要諸元

組合の車両に使用するシャシーは次のとおりとする。

(1) 性能、寸法及び諸元

ア 定 員6名以上イ 型 式ディーゼル

ウ 駆動方式 2WD

工 総排気量 5123 c c 以上

オ 最大出力 (kW/rpm) 154kW/2300rpm以上

カ 消防検定出力 (kW/rpm) 154kW/2300rpm以上

キ 最大トルク (kg. m/rpm) 58.5 kg. m/1400 rpm以上

ク 寸 法 (全 長) 7200㎜以下

(全 幅) 2400㎜以下

(全 高) 3100㎜以下

(ホイールベース) 3000m以上

ケ 水 槽 1300 L以上

コ 泡消火薬液槽 300 L以上

サ 変速機 オートマチック

シ オイルクーラー 水冷内蔵式

ス オルタネーター 24V-90A以上で消防活動において照明及び付

属品等が十分使用できる発電能力を有するもの

セ 燃料タンク 100 L前後のもの

ソ 蓄電池容量 145F51 (同等以上)×2

タ タイヤ 全天候型ラジアルタイヤ×7 アルミホイール付き

(スペアタイヤ1本含む)

チ 制動装置 ABS(アンチロックブレーキシステム)

ツ 安全装置 運転席エアバッグ

テ オイルパンヒーター コンセント (規格別途指示) は右側運転席乗降ス

テップ付近とし、キャプタイヤコード15mコネク

ター付

(2) その他

ア パワーステアリング (シャシーメーカー純正品)

- イ 電動キャブチルト (シャシーメーカー純正品 電動油圧式 チルトシリンダー2本)
- ウ サイドバイザー (シャシーメーカー純正品 ドア上部の前後左右)
- エ 泥よけ (シャシーメーカー純正品 全輪)
- オ メッキミラーカバー(シャシメーカー純正品)
 - ※ 特に指示のないものは標準装備とする。

第2 艤装

1 車体構造

- (1) 化学 I 型としての用途に合致した精度と強度を有するものであること。
- (2) 安全に係る構造部分の強度については、強度計算書等により確認されていること。
- (3) ポンプ、水槽、ホースカー等の重量物の取り付け部、ギヤケース、駆動ジョイント、ポンプシャフト等ポンプ駆動装置の荷重の加わる部分にあっては、十分な強度を有していることが強度計算等により確認されていること。
- (4) 通路等の床及びその取り付け部は、踏み面にア及びイの外力を垂直方向に加えた場合、永久に変形が生じないこと。
 - ア 任意の場所の125mmの直径に1800Nの荷重とし、昇降用梯子にあっては、横桟中 央125mmの幅に1800Nの等分布荷重とする。
 - イ 1 m²当たり一様に4500Nの荷重
- (5) 手すりは、任意の点に900Nの荷重を作用させた場合に永久に変形が生じないものであること。
- (6) ステップは、任意の点に1800Nの荷重を作用させた場合に永久に変形が生じないものであること。
- (7) 各積載品の取り付け金具等は900N、固定用ベルトは500Nの荷重を作用させた場合、永久に変形が生じないものであること。

2 艤装材料

使用される材料は、耐食性に優れたもの又は、必要に応じ防食処理が施されたものであり、 難燃性の優れたもの及び経年劣化の少ない素材を適正に選定すること。

3 ポンプ

- (1) ポンプは、アルミニウム製の高圧1段ボリュートポンプ又は高圧2段バランスタービンポンプとし、ポンプ装置の軸封部にメカニカルシールを使用して、長期にわたりメンテナンス性の高い構造とすること。
- (2) 性能は、A-2級以上とする。
 - ア 規格放水圧力(0.85Mpa)で毎分2000L以上
 - イ 高圧放水圧力(1.4Mpa)で毎分1400L以上

- (3) ポンプの架装位置は努めてエンジン部に近づけ、かつ点検手入れに便利なよう堅固に取り付けること。
- (4) 主ポンプ及び附属装置を支える鋼材は、溝型鋼等でシャシーフレームに堅固に取り付け、 振動や衝撃等により緩みや変形等を生じないようにすること。
- (5) ポンプドレーンコックは、30秒以内にポンプ内の残水を完全に排水できるものとすること。
 - ポンプ室点検口は、ポンプ室前部、ポンプ室上部及びその他必要な点検しやすい箇所に設けること。
- (6) ポンプ室前部側板は、点検に便利な構造とし、ポンプ室上部はできる限り大きく開放できる構造で取り外し可能とすること。
 - ポンプ室内にLED照明灯を2箇所、堅固に取り付けること。
- (7) ドレーンの各配管の排出弁は、吸水系統と吐水系統に色分けし集中ドレーン方式とすること。

4 吸水装置

- (1) 真空ポンプは、当地域の地形的特徴を考慮し、最大真空度が高く、高落差でも吸水条件のよい、ピストンを左右に動かし吸排気バルブにより空気を排出する方式とし、オイルレス無給油ポンプ方式とすること。
- (2) 真空ポンプの駆動接断は、電磁式又は電気式装置とし、左右いずれからでも操作が可能で、 水圧 0.3 Mp a / cm 以内で自動的にクラッチが切れ、非常用の停止スイッチを設けること。
- (3) 真空ポンプは故障等を防ぐための安全装置(遠心分離器及び水遮断器 同等品可)を取り付けること。

5 ポンプ調整装置・動力伝達装置

- (1) ポンプ運転のための動力取り出しは、車両の運行に影響を及ぼさず、動力が効率良く伝導され操作が容易にできる構造とすること。
- (2) スロットルダイヤルは、ポンプ室左右のいずれからでも各計器類を見ながら操作ができるように取り付け、円滑に微細な調整ができ、かつ振動等で変調しない調速ダイヤル式とすること。
- (3) ポンプの運転切換え操作は、運転席付近に設けたボタン式スイッチにより行えること。
- (4) 左右ポンプ室内にポンプ操作液晶モニターを設け、以下の機能を設けること。
 - ア 各吐水口流量表示(放水銃含む)
 - イ ポンプ回転計
 - ウ DPR警告表示
 - エ 電子水量計・消火薬剤液量計
 - 才 放水反動力計

- カ 取扱説明書データ
- キ その他当本部が指示する機能消火薬剤

6 吸水及び放水

- (1) 吸水口は、75mmボールコック式とし、自在式エルボを取り付け、吸管が前後自由に移動できるようにし、ストレーナーを取り付けること。
- (2) 吸管取付金具は、エプロンステップ等を使用せずに隊員が容易に外せる高さとすること。
- (3) 呼水装置を設け、揚水完了が目視できる確認カップ及びバルブを取り付けること。
- (4) 中継口は、65mmボールコック式 (ストレーナー付) をポンプ両側に各1個設け、町野式メス (蓋付) とすること。
- (5) 放水口は65mmボールコック式を車両の左右に各2個設け、すべて町野式オス金具65・ 50mm兼用(マルチコネクター)を取り付けること。
- (6) 吸水口、放水口、中継口等のコックは、すべて前方開きとすること。

7 水槽

- (1) 水槽は振動、衝撃等により損傷、緩み等を生じないように車台に固定して設けられ、使用時に予想される水圧に対して変形及び水漏れのない構造とし、水槽内面は適当と認められる防食加工を施すこと。
- (2) 水槽の艤装材料の厚さは、側板4.0mm以上、底部6.0mm以上、上部4.5mm以上のポリプロピレン樹脂又はステンレス鋼板を用い、接合部は電気溶接等で堅固に製作し、軽量及び防錆、耐久性に優れたものとすること。
- (3)ア 水槽の容量は1300 L以上とし、0.3 M p a /cmの水圧に対して変形及び水漏れのない構造で内部には防波板を設けること。
 - イ 車両重心位置を考慮し、積載位置はできるだけ前方に取り付けること。
- (4) 水槽内部は清掃、塗替え等に便利な構造で、上部に直径 4 5 0 mm以上のマンホールを設け、蓋を固定する蝶番ネジはステンレス製とすること。
- (5)ア 水槽は、ポンプから自己補給が可能な補給口、排水口、オーバーフローパイプを設け、給水配管は毎分1300L以上の放水に適する大きさとし、コック及び配管には緩衝装置を設けること。
 - イ タンク補給口は、左右の後部タイヤフェンダー (開閉式、ステップ兼用) 内上部に取り付け、タンク補給口がタイヤの泥はね等で汚損しないよう処置をすること。
- (6) タンク補給口には65mm町野式メス各1個を左右に取り付けること。
- (7) 水槽補給管最底部に圧力及び残水を抜く排水弁を設けること。
- (8) 側板に100Lごとに目盛りのある水量計を車両の左右に取り付け、残水が一目で分かる 措置を施すこと。
- (9) 水槽内が満水及び空の双方の状態において、走行時の車両の安全性を確保できるものであ

ること。

(10) 水の補給条件(送水圧力)を表示すること。

8 泡消火薬液槽

- (1) 泡消火薬液槽は300L以上で薬液室2つから構成し、振動、衝撃等により損傷、緩み等を生じないように固定して設けられ0.3Mpa/cmの水圧に対して変形及び水漏れのない構造とし、泡消火薬液に対し、腐食性に優れたもの又は表面に防食加工が施されたものであること。薬液槽内部には必要に応じて有効な防波板を設けること。
- (2) 泡消火薬液槽は、泡消火薬液注入口、通気管、泡消火薬液の取り出し口、真空弁、ドレン、液量計等を設けること。液量計は薬液による曇り防止のため容易に洗浄できる構造とすること。
- (3) 泡消火薬液槽の艤装材料の厚さは、3.0 mm以上のポリプロピレン樹脂またはステンレス鋼板を用い、接合部は電気溶接で堅固に製作、密閉型で、必要に応じ内部に完全な間仕切りを設ける。
- (4) 泡消火薬液が流動する部分の材質及び強度については、「化学消防車等の安全基準」を満足するものであること。なお、車体重量の軽量化のため水槽と泡消火薬液槽は複合型構造とすること。
- (5) 泡消火薬液槽の液量計を車体右側に取り付ける。
- (6) 泡消火薬液槽の上部に塵よけストレーナーを設ける。
- (7) 泡消火薬液槽の上部マンホールのネジはステンレス製(落下防止措置付)で、薬液が外に 漏れないようパッキン等で完全に密閉できる構造とし、蓋上部に吸排気弁を設ける。
- (8) 泡消火薬液槽底部に排液口(バルブ付)を設ける。
- (9) 泡消火薬液槽は内部の清掃に便利な構造であること。

9 泡消火薬液混合装置

- (1) ポンプの吐出側と吸入側との配管にバルブ及び遠隔操作型ポンププロポーショナーを設ける。また、ポンププロポーショナーのメタリングバルブと原液槽を結ぶ配管にもバルブを設ける。
- (2) 混合装置はポンプ室右側で操作でき、最大混合能力1200L/min以上であり、適正 混合流量範囲は最大混合能力から500L/minまでの範囲を包含する。
- (3) 混合比はメタリングバルブにより調節できるものとし、3%及び6%の設定ができる構造であること。
- (4) 混合装置及び配管等の洗浄装置は、主ポンプ等を用いて洗浄し得る構造とする。
- (5) 泡消火薬液専用配管の材質は、ステンレス鋼管を用い、バルブ類は砲金 (CAC) 製とする。
- (6) 泡消火薬液の配管通路を色分けし、清掃、整備が行える構造とする。

- (7) 各送液コック又は水槽の手前には、吐出の水が薬液槽に流入しないよう逆止弁及びストップバルブを設ける。
- (8) 操作手順の銘板を操作バルブ付近に設ける。
- (9) ポンププロポーショナーの一切の操作レバー・バルブ類は、右側ポンプ室内に集約したオールインワン構造とし、他の資機材収納ボックス内に影響のないレイアウトとすること。

10 自衛噴霧装置

- (1) 車体左右上部に各3個の自衛噴霧ノズルを設ける。
- (2) 車体反対側の操作により3個(片側)同時に噴霧できるものとする。

11 燃料タンク

- (1) ポンプ室内に燃料タンク(100L以上)を取り付け、取り付け場所は重心バランスを考慮し、可能な限り低い位置とすること。
- (2) 給油口は、給油及び携行缶による補充がしやすい場所に設け、外板に扉を作製して「軽油」の銘板を取り付けること。

12 キャビン

- (1) キャビン外装
 - ア キャビン左右に乗降用踏台をアルミ縞鋼板で堅牢に作製し、安全に乗降できるようにすること。
 - イ キャビン左右に乗降のため必要箇所に手摺りを堅固に設置すること。(位置別途協議)
 - ウ キャビン右に車輪止めを2個設置できる箇所を設けること。(位置別途協議)
 - エ キャビン上部中央部付近に対空表示を施すこと。(位置等、文字サイズ別途協議)
 - オ 車両前面中央部に直径180mmのプラスチック製クロームメッキ仕上げの消防章を取り付けること。
 - カーナンバープレートには、ステンレス製のメッキ保護枠を設けること。
 - キーフロントグリルはメッキ製とすること。
- (2) キャビン内装
 - ア キャビン後部座席天井に、地図等が読み取れる照度のLED照明灯を設けること。 スイッチは取り付け部付近に設けること。
 - イ 助手席左前側支柱部に、スイッチ付きフレキシブルアーム式LEDスポットライトを、 運転席方向を照らさないよう下向きに取り付けること。
 - ウ キャビン内上部の電気配線は、整理して天井内に埋め込み配線とすること。
 - エ フロントガラス等の曇止め防止装置(空調設備)を取り付けること。
 - オ 運転席と助手席との間にコンソールボックスを設け、電子サイレン及び各スイッチ類 (赤色灯、サイレン、計器灯、BOX灯、標識灯、サーチライト等)を収納し上面に蓋を

- 取り付けること。(位置等別途協議)なお点検等のため、蓋は簡単に取り外せる構造とする。
- カ デジタル無線機(支給品)、無線用送受話器をコンソールボックス付近に取り付けること。
- キ 前席シート背当ての裏側に走行時の安全確保に必要な手摺りを設け、S字フックを6個 取り付け、走行時の音を軽減するため、ビニールカバー等で覆うこと。
- ク コンソールボックス後方に、書類及び充電式ライト等を入れることのできる収納箱(底 部固定式)を設けること。取り外し可能な仕切り板を設けること。(寸法等別途協議)
- ケ キャビン内最後部に、空気呼吸器 4 基をセットできる金具(スマートドック)を取り付け、上部に防火衣を掛けるフックを 4 箇所設けること。
- コ 後部シートの後方(空気呼吸器収納下)に木製収納ボックスを設けること。走行時の振動や衝撃にもガタつかない措置を施すこと。
- サ 後部座席座面は、2分割のフラットシートとし、座面は通常時座れる状態であり、必要 に応じて跳ね上げられるように施すこと。なお、木製収納ボックスとシート間は隙間を埋 めるよう施工すること。
- シ トランジスタメガホンをウエストホルダー等により設置すること。(位置等別途協議)
- ス フロントガラス付近の有効な位置に配線を施し、ドライブレコーダーを設置すること。
- セ 視認性の良い位置に、デジタル時計を設置すること。
- ソ キャブチルト時、キャビンを最も高い位置まで持ち上げた状態を維持するためメカニカルなロック装置を設け、ロック装置が機能していない場合の警告措置(警告音等)を設けること。
- タ 座席に防汚シートカバーをすること。(色別途協議)
- チ 運転室内に機関員が視認しやすい位置に、カーナビゲーションを取り付けること。 なお、カーナビゲーションについては、バックカメラ及びテレビチューナーを有しないも のとすること。
- ツ 運転室内に機関員が視認しやすい位置に、後方確認カメラシステムのモニターを取り付けること。
- テ 運転席付近に車両総重量・全長・全幅・全高を記したプレート等を設けること。

13 車 体

- (1)ア ボデー側板は2.0 mm以上の鋼板、サイドエプロン、フェンダー等は1.6 mm以上のFR Pを使用し、各種積載品の取り付け金具は堅固に固定すること。
 - イ 各ボデー鋼板の裏側接続を行う際は、シリコン詰め等水密及び防錆処理を完全実施する こと。また、長期の使用にも耐え得るように施工すること。
- (2) 各ステップ(サイド、リヤ)は厚さ3.2mm以上の強力な防錆性能を有したアルミ縞鋼板とすること。各ステップとも堅牢に作成し、150kg以上の荷重にも耐え得るように

施工すること。

- (3) リヤステップ付近の最低地上高は、資機材と水を積載し定員が乗車しても400mm以下にならないようにすること。
- (4) フロント及びリヤドアのサイドシル部、梯子乗降部、リヤフェンダーの吸管接触部等の塗装が剥がれやすい箇所に保護板を設けること。
- (5) 各金属板の外周は、内折れ加工とし点検等に危険のない構造とすること。
- (6) 車体後部左面に、上部面乗降用のステンレス製梯子を堅固に取り付けること。
- (7)ア キャビンと車体の間にLED照明灯(サーチライト)を2基取り付けること。
 - イ 暴風等の悪天候下でも使用可能とし展開、収納等の作動時に隊員保護のための安全装置 を備えていること。
- (8) 乗降用梯子下部のコンビネーションランプは、埋め込み式とすること。
- (9) 車体上部前方に放水銃を取り付けること。
- (10) 車体上部の周囲で安全上必要な場所に1段の手摺り(直径25mmステンレスパイプ)を設けること。
- (11) ステップ、ボックス等の水の溜まる箇所には水抜き孔を設けること。
- (12)ア 上部一面は、アルミ縞鋼板でフラット式としポンプ室点検口、水槽用マンホール、泡消 火薬液槽マンホールの開閉扉を取り付けること。
 - イ ポンプ室点検口は、2枚の蓋で開口し取り外せるものとすること。
 - ウ 内部 (ポンプ室) の空間にアングル鋼等で棚を設け、泡消火薬液缶 4 本を収納すること。 アングルはボルト止めとし、ポンプ点検時は取り外せる構造とすること。
- (13) 左右側面中央上部にLED式作業灯を各2個取り付けること。車体後部に保護枠付きでLE D作業灯を1個取り付けること。
- (14) 左右のフェンダー (開閉式、ステップ兼用) 内にステンレス製の救助固定用支持金具を各 1個取り付けること。許容荷重銘板 (kg) を設けること。(位置別途協議)
- (15) 車両のフロントバンパー部に牽引用のフックを取り付け、作業時ワイヤー等がボデーに接触しないように施すこと。許容荷重銘板(kg)を設けること。

14 ボックス類

資機材の落下や盗難、凍結防止に配慮し、車体側面左右2枚又は3枚、後部1枚の鍵付オールシャッターで耐久性、防水性を有する堅牢な構造とし、開閉は任意の位置で停止できる機能が確実なものであり、走行振動等により歪み、ガタつき防止又は開放の恐れのないロック装置を設けること。(区画、収納方法等別途協議)

仕様書に掲げる資機材を車両総重量11 t 未満に収まるようレイアウト設計を行うこととし、 必要に応じて可動式棚や展開パネル、引出装置、落下防止手摺り、仕切り板、収納箱などを設け ること。(詳細別途協議)

シャッターは下げ降ろしベルトを取り付け、ベルトを固定できるマジックテープを取り付け

ること。

(1) バッテリー収納ボックス

キャビンの左後部下に防水性を有するボックス内に収納し、バッテリーを容易に固定又は 解除できる引き出し式で、配線が引っ掛からず点検等が容易に行えるような構造にすること。

(2) 資機材等収納ボックス

キャビンの右後部下に、資機材(媒介、ホースバンド等)を収納するボックス (スノコ敷き)を設け、上面はアルミ縞鋼板板張りとすること。

(3) 外部用無線機送受話機収納ボックス

ア 車体左右計器盤周辺に、外部用無線機送受話機収納ボックスを取り付け、付近にスピーカーを取り付けること。(位置別途協議)

イ 運転席側ボックス内に動態スイッチを取り付けること。(運転席側)

(4) 凍消用ボックス

ア 左右吸水管積載部下に65mmホース×4本程度収納できるボックスを設けること。 ボックス開口部下部に3方ローラーを取付け、床下にはスノコを敷くこと。(寸法等別途協議)

- イ 蓋部は(ストッパー付)、補強した二重構造でリンク等により水平位置に固定し、内側にはアルミ縞鋼板を全面に張り、ステップとして上部の吸水管、資機材の出し入れを容易に行える構造とすること。LED照明灯を必要数取り付けること。
- (5) 左右側面中央ボックス (ホース収納及び資機材収納)

ア 左右後輪上部に、ホース及び資機材を収納できるボックスを設けること。必要に応じ、 仕切り板、収納箱を作成し資機材を収納すること。(区画、収納方法等別途協議)

イ 各ブロック(スノコ敷き)ごとに転倒、落下防止用のマジックテープ又は、ロック式ベルト各2箇所取り付けること。

ウ LED照明灯を取り付けること。

(6) 左側面後方ボックス(資機材収納)

ア 左側面後方に発電機等を収納できるボックスを設けること。(区画、収納方法等別途協議) イ LED照明灯を取り付けること。

(7) 右側面後方ボックス(資機材収納)

ア 右側面後方に資機材、小型ポンプ等を収納できるボックスを設けること。必要に応じ、 仕切り板、収納箱を作成し資機材を収納すること。(区画、収納方法等別途協議)

イ 小型ポンプ収納ボックスは、C-1級の小型動力ポンプ(VE20A)を収納できる大きさとし、金属性架台(ローラー式引き出しレール、ハンドルストッパー付)を設け内部にLED照明灯を取り付けること。 扉部にストッパーを取り付け、下方に開き二人で両側から取り出せるようにすること。

ウ LED照明灯を取り付けること。

- (8) 車体上部にアルミ縞鋼板製資機材ボックスを2個設けること。(資機材・泡消火薬液缶収納) 扉は上開き、外側上部にステンレス製の蝶番ネジ、ストッパー付(ダンパー)、内面の底部 には「すのこ」を敷き、ボックスの下にH鋼等(完全な防錆対策を施す)で、空間を設ける こと。ストッパーは十分開いて安定した位置で固定し、走行による振動や衝撃等にも緩み や、ガタつくことのないよう施工すること。(寸法位置別途協議)
- (9) 後部収納ボックス
 - ア 後部に車輪折りたたみ型加納式ホースカーを収納すること。
 - イ 動力昇降装置と昇降用スイッチを付近に設け、隊員1名でも容易かつ安全確実に積み降 ろしができること。
 - ウ 装置は走行時の振動、衝撃等に耐え得る堅固なものとすること。

(10) その他

- ア 各ボックスは堅牢かつ水密構造とし必要箇所には仕切り板を設け、蝶番ネジはステンレス製とすること。(寸法は収納品、側板高さ等により変更する場合がある。)
- イ 積載のない資機材(エンジンカッター、チェーンソー等)についても積載したことを考慮して、転倒、落下防止用のマジックテープ又は、ロック式ベルトを取り付けるよう別途協議すること。
- ウ その他、記載のない資機材収納場所については別途協議すること。

15 計器類

- (1) ポンプ室両側の計器盤には圧力計、連成計、流量計を設けること。
- (2) 運転席から見やすい箇所にエンジン回転計及び油温計を取り付けること。
- (3) 車体右側面にポンプ回転計を取り付けること。
- (4) 計器類の取り付け部分はステンレス板とすること。
- (5) 夜間作業に必要な箇所にLED照明灯を取り付けること。

16 冷却装置

- (1) 標準装備仕様とし調整バルブは操作に便利な位置に設けること。
- (2) 配管には、予備回路付のストレーナーを設けること。

17 警報信号装置

- (1) 散光式警光灯(モーターサイレン内蔵)をキャビン上部に取り付けること。
- (2) 電子サイレンアンプを室内に取り付け、スピーカーは散光式警光灯内に取り付けること。 また、専用マイクを 2 個付けること。 (位置等別途協議)
- (3)ア 赤色ストロボ式点滅灯 (LED) を車体前部左右中央部、左右側面上方、後部左右上方 に取り付けること。
 - イ 車体後部赤色ストロボ式点滅灯には、保護枠付きで設置すること。(位置等別途協議)

18 塗装及びメッキ

- (1) 塗装の外面は朱色(消防車緊急車仕様)とすること。
 - ア フレーム、フェンダー内側、ステップ裏側、その他車体の下回りは黒色とすること。
 - イステップ並びに床面は、アルミ縞鋼板仕上げとすること。
 - ウ 補修用塗料として、朱色と銀色各1色付属させること。
- (2) 塗装は素地調整を行った後、プライマー塗り、パテ付け、水研ぎ、サフェイサー等の工程で下地処理を完全に行い、良質のウレタン塗料を使用し3回以上の上塗りで仕上げること。
- (3) 次のものは上質のアルマイト処理を行うこと。 計器盤、各操作レバー、把手、手すり、止金具、照明灯、筒先金具その他塗色以外の露出 部。ただし、鉄製品は銅メッキのうえ行うこと。
- (4) 各配管は動力消防ポンプ (第10条) の技術上の規格に定める省令の途色とすること。
- (5) 車体の下回り及びアルミ縞鋼板部分は、塩害を考慮し塗装を施すこと。

19 デジタル無線機関係

- (1) デジタル無線機(本体支給品、共用機含む)を現有車両から取り外し、新規購入車両へ乗せ替えること。(セットアップ含む)施行については当組合と協議し調整すること。
- (2)ア キャビン上部にデジタル無線機用のアンテナを2本取り付けること。
 - イ アンテナ間の距離は1.2 m以上開け、アンテナ基部に障害物に有効なスプリングを取り付けること。(位置別途協議)
 - ウ 室内のアンテナ取り付け位置からデジタル無線機まで空中線ケーブル (新規品) を配線 すること。
 - エ 送受話器は無線機本体、車体左右側板の計3個とし、無線機本体の送受話器は支給品、 車体左右側面は新規品とし、車外通話器までの配線を施し堅固に取り付けること。
- (3) デジタル無線機取り付け金具をコンソールボックス付近に取り付けること。 (位置別途協議)
- (4) バッテリーから無線機までの電源ケーブルを配線し、接続端子を取り付けること。 接続端子は容易にはずれない端子を使用すること。
- (5) 電気回路には、短絡等による部品の損傷を最小限にするための保護装置(ヒューズ等) が、系統別に区分して設けられていること。
- (6) キャビン内にデジタル携帯無線機充電用のコンセント (AC100V) を2口設けること。

20 車載型端末装置(以下「AVM」という。)関係

- (1) AVM (本体支給品) を現有車両から取り外し、新規購入車両へ乗せ替えること。(セットアップ含む) 施行については当組合と協議し調整すること。
- (2) コンソールボックス付近にAVMを架台付で取付けること。(セットアップ含む)
- (3) AVMまで空中線ケーブル(新規品)を配線すること。

(4) AVM用の電源を設け(新規品)、本体まで配線すること。

21 記入文字

(1) 車体前部

ア 文 字 「館山化学1」

イ 色 等 丸ゴシック体、白色(寸法等別途指示)

(2) キャビン左右側面

ア 文 字 「安房郡市消防本部」「館山化学1」 「AWA FIRE DEPT.」

イ 色 等 丸ゴシック体、白色(寸法等別途指示)

ウ その他 両側面とも左書きとすること。

(3) 車体後部

ア 文 字 「安房郡市消防本部」「館山化学1」

イ 色 等 丸ゴシック体、白色(寸法等別途指示)

(4) キャビン上部

对空標示文字 「館山化学1」(字体、寸法別途指示)

(5) 散光式警光灯(標識灯)

「館山消防署」(字体、寸法別途指示)

(6) 車体側面 (補助金使用明記文字等)

ア 文字等 文字又はエンブレム(別途協議)

イ 色 等 丸ゴシック体、白色 (寸法等別途指示)

22 その他

- (1) ボデー外面に使用するボルト、ナット、ワッシャー類はすべてステンレス製とし、ナット を使用せずにボデー鉄材等に直接ネジを切る場合は、ボルトの径と同じ厚さになるように当 て板を溶接するか、溶着ナットを使用すること。
- (2) 車両前面中央部に直径180mmのプラスチック製クロームメッキ仕上げの消防章を取り付けること。
- (3) 後部ナンバープレートの取り付け位置は、車体後部とし周囲に堅牢な保護枠を設け、道路 運送車両法施行規則第7条を遵守し取り付ける。(詳細位置については別途協議)
- (4) 各機器操作部には、名称、矢印、取り扱い方法を記入したプレート(銘板)を設けること。
- (5) 各銘板は、腐食や変形に強い素材を使用すること。
- (6) 各手摺りは直径25mm以上のステンレスパイプを使用すること。
- (7) フロントバンパー上面等の足を掛ける場所に、アルミ縞鋼板による保護板を取り付けること。ただし、標準装備で同程度の機能を有するものが施工されている場合は除く。
- (8) 灯火類、照明灯類には必要に応じステンレス製保護枠を取り付けること。
- (9) ヒューズボックスを増設し、機器はすべてヒューズを通すこと。(コンソール部)

- 10 キャビン内に乗降の際、足の接触する部分にはアルミ製保護板を取り付けること。
- (11) ドアにサイドバイザーを取り付けること。
- (12) 左サイドミラーは電動収納式で、サイドミラー下に隊長用ミラーを取り付けること。
- (13) フロントガラス外面の上側及び下側にそれぞれ把手を取り付けること。
- (4) ボデー下部のリヤタイヤ前方左右に保護枠付LED型路肩灯を堅固に取り付けること。
- (15) 外部電源コネクター(車両側マグネット式)を運転席側に設け防水措置を施すこと。また、車両バッテリー等の簡易充電、オイルパンヒーターも行える切換え両立仕様でコードの長さは15mとすること。
- (16) 雨天時においても使用できる資機材注記用シールを大小必要数付けること。枚数等については別途協議すること。
 - ※ 取り付け品、付属品の積載場所方法については別途指示し、必要なもの及び特に指示するものは現物合わせによること。

第3 付属品

1 放水銃

- (1) 車両天井部に取り外し可能な放水銃を搭載すること。なお、地上でも安定した使用が可能な4脚架台を付属すること。
- (2) 最大放水量は2000L/min以上とし、放水量設定が可能であること。
- (3) 可変ノズル機能を有すること。
- (4) 通常放水及び泡放水が可能であること。
- (5) 車載時は、俯仰15~75°、旋回360°可能なこと。

2 ホースカー

- (1) 65mmホース10本を収納、二又分岐及び媒介65mmメス×65mmメス、65mmオス×65mmオス、65mmメス×50mmオスが積載可能な構造とすること。
- (2) ホースカー上部に、小型ポンプが積載可能であること。
- (3) ホースカーに坂道等でも確実に停車できる制動装置を設けること。
- (4) 停車時、ホースカーが平行になるようスタンドを設けること。
- (5) ホースカーの四面に反射テープを取り付けること。(色位置等別途協議)
- (6) ホースカーにカバー (直接被せるタイプ) を付属すること。(シャッターがある場合は不要とする。)
- (7) ホースカーのタイヤは、ノーパンクタイヤとすること。

3 三連梯子及び積載梯子動力昇降装置

(1) 車体屋上面に三連梯子を積載する。積載はしご動力昇降装置は、至便な位置に昇降用スイッチを設け、隊員1名でも容易かつ安全確実に積み下ろしができること。装置は走行時の振

動、衝撃等に耐え得る堅固なものであること。

(2) 三連梯子は、隊員1名でも搬送可能なキャスター付きとすること。

4 吸管

- (1) 車両用吸管は、75mm軽量吸管(スーパーデラックス)とし、灰色(反射線入り)10m をポンプ室左右に各1本積載すること。(吸管の巻きは真円とする。)
- (2) 化学繊維製耐水ロープ(直径10mm 長さ15m)を左右各1本付けること。
- (3) プラスチック製ストレーナー及びちりよけかごを左右各1個付けること。
- (4) 小型動力ポンプ用吸管(65mm軽量吸管)を屋上面又は車両後部内部に積載できるよう、固定金具を取り付けておくこと。ただし、屋上面に固定金具を設置する場合は、吸管積載時、水槽用マンホール点検扉の開閉に支障がないように設置すること。又、車両後部内部に固定金具を設置する場合は、吸管積載時、ホースカーの使用に支障がない位置に設置すること。(位置等別途協議)

5 照明器具

- (1) 発電機 (EU9 i 型と同等品以上)、投光器 (LED型60W以上、防水性)、コードリール (30m)、コード (2m)、三脚の照明器具一式を左側面後方ボックス内に積載すること。
- (2) 必要に応じ枠箱を作成し、容易に取り出せ、走行時の振動等に耐え得る構造とすること。

6 とび口

とび口(3本)を堅固な取り付け金具にて設け、刃先部分に安全枠を設けること。(位置等別 途協議)

7 消火器

ABC粉末消火器(薬剤質量6kg入り車載用、カバー付)を車体左右に各1本を固定金具により積載すること。(位置別途協議)

第4 補 足

1 車両の納入期限は令和8年3月16日とする。

受注者は、社会情勢の影響等、受注者の責めに帰すことができない理由により、上記納入期限の履行が不能となる場合は、その理由を明示した書面により、発注者に納入期限の延長変更を請求することができる。

発注者は、上記請求があった場合において、必要があると認められるときは、納入期限を延 長しなければならない。

2 車両の納入は受注者が行い、車両納入までに行う検査に要する費用等、納入までの間に要した費用の一切を受注者が負担すること。ただし、リサイクル料、自動車損害賠償責任保険料、

重量税は組合が負担する。

- 3 受注者は更新対象車両から納入車両への泡消火薬剤の載せ替えに必要な資機材を貸与すること。
- 4 金額については、購入物品等の設置工事費用を含め計上すること。
- 5 車両の搬入、搬出、保管時の事故責任は、受注者が負うものとする。
- 6 納車後、必要により組合の指定する日程で、すべての取り扱い説明を行うこと。
- 7 車両の納入先は、安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部とする。
- 8 仕様書中、型式に指定があるものについては、仕様を確認の上納入すること。なお、同等品を納入する場合は、事前に同等性能の証明書類を提出し、当組合の承認を得ること。

【補助対象取付品及び付属品】

N o	品 名	数量	寸 法	取付位置	摘 要
1	ポンプ圧力計	2	1 0 0 mm	左右各1	
2	ポンプ連成計	2	1 0 0 mm	左右各1	リタード式
3	エンジン回転計	1			
4	エンジン油温計	1			
5	散光式赤色警光灯	1式		キャビン上部	スピーカー及び標識内蔵型 「館山消防署」名入り 参考NF-L-VA2M-HC2-LF型
6	電子サイレン	1式		コンソール	Mark-D1 (津波警戒、DRヘリ)
7	照明灯	2			サーチライト クアトロビーム (MYS-75LP) ポール (PL-511) (引き上げタイプ)
8	後退警報ブザー	1		後退灯付近	音声付
9	標識灯	1			No. 5 に含む
1 0	自衛噴霧装置	6		左右各3	

【軽微な変更として備えることができる取付品及び取付装置】

Νο	品 名	数量	寸 法	取付位置	摘 要
1	ナビゲーションシステム	1 式			メーカー純正品 チューナーレス
2	電動サイレン	1			モーターサイレン
3	真空計	2	1 0 0 mm	左右各1	
4	ポンプ回転計	1		側板右側	
5	流量計	2		左右各1	積算流量計 (内蔵型)
6	キャブチルト装置	1			電動油圧式
7	オイルパンヒーター	1			コード15m (マグネット式)
8	作業灯	5		左右側面上部 車体後部	大阪サイレン LIA-200 (車体後部は保護枠付き)
9	車外無線送話機取出口	2		左右各1	ボックス型

1 0 反射材

【備えなければならない附属品】

Νο	品 名	数量	寸 法	取付位置	摘要		
1	吸管	2	1 0 m	左右各1	軽量(反射線入り)		
2	吸口ストレーナー	2			ステンレス製		
3	吸管ストレーナー	2			プラスチック製		
4	吸管ちりよけかご	2			プラスチック製		
5	吸管まくら木	2					
6	吸管ロープ	2	10mm×15m		岩﨑製作所ストカゴ用		
7	消火栓金具(吸管用媒 介金具)	2		ストカゴ+ヒッパラー媒介+ガイドロープ+差込オス媒介			
8	消火栓開閉金具	1式	スピンドルドライ/ 立上り消火栓キー2		2 蓋開け金具(フック) 2		
9	吸管スパナ	2					
			ヨネ eーノズル	フォルダー(ガン	/タイプノズル型 PEH-50A)×2		
1 0	管そう	4	ョネ スーパーストリーム管そう PP-50A・EXS・L				
			ョネ 無反動管そうα PL-50A				
			ヨネ オートマチック・Gフォースノズル (NV-50DMG				
1 1	ノズル	5	ヨネ ヴァリアブルノズル (23mm NV-65BX) × 2				
			ヨネ フリップチップ・プラスノズル(NV-50FTS・M)				
1 2	放口媒介金具	4	6 5mmメスネジ×マルチコネクター (50.65)				
1 3	 発泡筒先	4			FN-65MXG× 2		
1 0	701614170	<u> </u>			FN-65LXG× 2		
1 4	とびロ	3	1.8 m		車両固定金具含む		
1 5	金てこ	1	1200mm		先端部ハガネ入り		
1 6	剣先スコップ	1			ステンレス柄		
1 7	車輪止	2			ゴム製大型		
1 8	消火器	2			ABC粉末6kg入り(車載用)		
1 9	ポンプ工具	1式					
2 0	ホース	2 0	65mm (使用圧1.6MPa以上) 袴はオレンジ色 低圧損ホース (YOKOIPRO U-ST16 ホワイト)				
2 1	照明器具	1式	発電機 (EU9i型) 投光器 (LED型60W以上 小型軽量) コードリール (30m)、コード (2m) 三脚付				

【軽微な変更として備えることができる付属品】

Νο	品 名	数量	寸 法	取付位置	摘	要
1	タイヤチェーン	1式			シングルタイヤ	用
2	分岐管	2	MC分岐ボールバルブ65メス/65・50マルチオス		Κ	

3	ホースブリッジ	1式		ゴム製 CB-450
4	ワイヤー	1		牽引用
5	おの	1		
6	ホースカバー	1 0		ホースバンド65mm用
7	スタンドパイプ	1		ョネ PS-65 (715mm)

【補助対象外取付品及び付属品】

1 m +93	N 家外取刊	нн 🛮			T
N o	品 名	数量	寸 法	取付位置	摘 要
1	赤色ストロボ式点滅灯	6			LED型ストロボライト、車両前部、左右側面、後部
2	放水銃	1		車体上部前方	スティンガー2.0 (450mm伸縮柱、 噴霧ノズル及び泡ノズルアタッチメ ント)
3	空気呼吸器(A-1)	4組	※ボンベ無し	キャビン内後部	(4セット) 面体カバーグラスA1-1 2型 面体収納袋付※レスクマスクなし
4	空気呼吸器固定金具	4		キャビン内後部	スマートドック
5	ホース延長用資機材 (ホースカー)	1		車体後部	軽量 加納式 (カバー含む)
6	油圧電動昇降装置	1式			加納式ホースカー用
7	電動梯子動力昇降装置	1式		車体上部	佐藤工業所製品
8	牽引用フック	1		車両前部	引張荷重2 t 以上
9	無線機移設	1式		本体 (支給品)、3	空中線等(新品)セットアップ含む
1 0	AVM移設	1式		本体 (支給品)	セットアップ含む
1 1	吸口自在式エルボ	2	7 5 mm	左右各1	YONEスーパースイングエルボ
1 2	中継用媒介金具	2	6 5 mmメスネジ× 6	55㎜差込メス、キュ	アップ付
1 3	積載はしご	1		屋上面	KHRF-87アルミ製三連式(横 桟保護カバーTRS-50L・キャ リア付き)同等品以上
1 4	ホースバック	2			渋消式 FS1型
1 5	掛矢	1			
1 6	トラロープ	1			9 mm× 1 0 0 m
1 7	計器灯	2			LED型
1 8	ポンプ室内灯	2			LED型
1 9	発電機収納ボックス室内灯	1			LED型
2 0	ボックス内室内灯	1式			両側、後部ボックス内照明
2 1	後部座席照明灯	1式			LED型
2 2	スポットライト	1式			スイッチ付(助手席ピラー部)
2 3	路肩灯	2		左右後輪部	LED型 保護枠付

2 4	後尾灯	2		保護枠付、バックランプ組込		
2 5	フォグランプ	2		標準装備の場合は除く		
2 6	コンソールボックス	1	キャ	ビン内 無線機 (支給品)、デッキ、サイレ ンスイッチ類取り付け		
2 7	泡消火薬液積載枠	1	ポンプ室内上部 泡消火	〈薬液缶(ポリ容器) 2 0 ℓ× 4 本収納		
2 8	耐熱服	4	櫻記	雙謨 特殊耐熱服 KB-T1 同等品以上		
2 9	放口レンチ	2		吸管兼用		
3 0	泥除け	4	全軸	â		
3 1	スペアタイヤ	1	車両取り付けタイヤ	と同一種類(全天候型ラジアル)		
3 2	フロアマット	1式		前後席用		
3 3	曇防止装置	1式		エアコン(標準装備の場合は除く)		
3 4	乗降用梯子	1	後音	77左側 ステンレス製		
3 5	乗降用ステップ	2		ステンレス製折りたたみ式		
3 6	燃料缶	2	5L缶	混合用 ガソリン用 TS−5		
3 7	反射式合図灯	3				
3 8	停止表示板	1		認定品		
3 9	三角コーン	4	ライトアップコーン (折畳式、LED点滅式	コーン D点滅式、新ニッケル水素電池充電器、おもり付)		
4 0	拡声器	1		レイニーメガホンTS-633R		
4 1	充電式ライト	4	ルミテック製 ストリ デル(標準充電器セッ	「一ムライト 099 サバイバー IEC防爆モ ト)		
4 2	消防章	1				
4 3	泡消火薬液	4	20Lポリ容器	フカダ・エコアルコフォー ム 3-3・6 (クラスB)		
4 4	泡消火薬液	6	20 L ポリ容器	ラピタックⅣ		
4 5	漏水止め応急バンド	1 0		マジックテープ式		
4 6	隊長用ベスト	1	· ·	バーズ 防火服専用ベストFV-1黒ベース白文字 「館山消防署」、背部下「安房郡市消防本部」		
4 7	デジタル時計	1	キュ	アビン内 飛鳥車体製大型デジタル時計		
4 8	ドライブレコーダー	1式		レコセルスターCS-81WQH イブレコーダー予備記憶媒体×2		
4 9	バックモニター	1式	バッ	クモニターカーヴィジョン型式: C5005R・ 20R・K7210R		
5 0	ラインプロポーショナー	2		ョネ FP-65・400-G		
5 1	給油ポンプ 大	1		燃料給油用		
5 2	ジョウゴ	1		ポリ容器から泡消火液補給用		
5 3	工具セット	1		KTC工具 SK3561WZR		
5 4	スペアキー	2				

5 5	ブースターケーブル	1式		大型車用
5 6	達磨ジャッキ	1		7 t
5 7	牽引用ワイヤーシャックル	2		
5 8	ヒーターサイドミラー	1式		
5 9	車両火災用ブランケット	1		Lサイズ(車両用)
6 0	粉末状除染剤ケムクレンズ	3		500ボトル×2 5000ペール缶×1
6 1	小型動力ポンプ用吸管固定金 具	4		